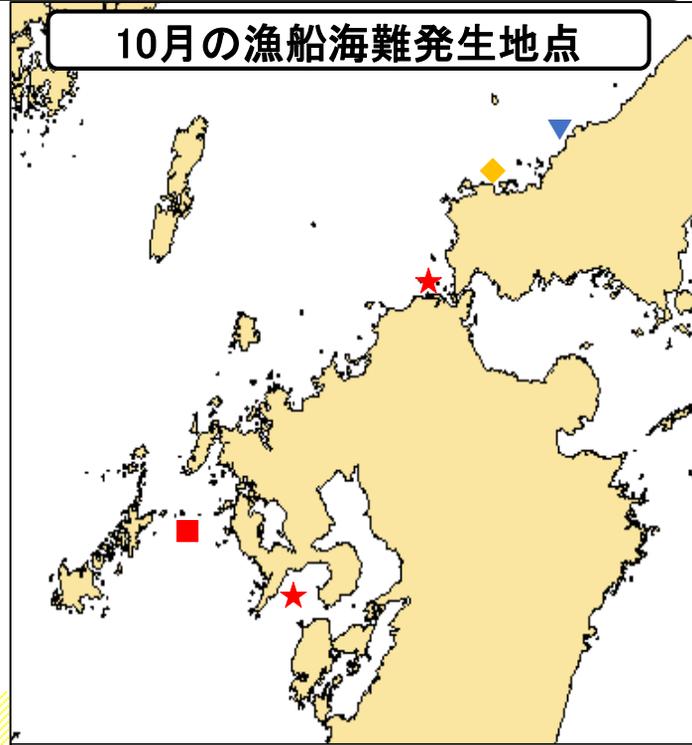


令和3年10月発生
七管内漁船海難 計5隻

令和3年10月累計 76隻 (前年 80隻)
漁船海難発生隻数は前年に比べ **4隻減少**

漁船海難隻数 (速報値)		県別内訳	
		10月	令和3年累計
衝突	★ 2	山口県 2	10 (11)
運航不能 (機関故障)	■ 1	福岡県 1	12 (14)
運航不能 (その他)	◆ 1	佐賀県 0	4 (3)
		長崎県 2	39 (38)
転覆	▼ 1	大分県 0	11 (14)
		合計 5隻	76隻 (80隻) ()は昨年同月
合計 5隻 (昨年 5隻) 死亡、行方不明者: 1件			

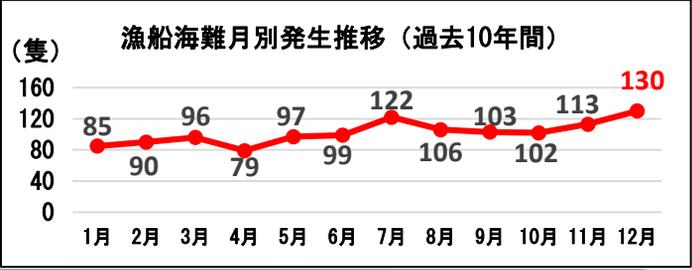


県別内訳表は、各県に所在する海上保安部署の担当海域にて発生した海難の合計数を示しています。数値は速報値です。

累計死亡・行方不明者数: 15名 (令和3年10月末日現在)

荒れる！時化する！冬場の海！気象海象に注意を！

11月末から2月末にかけては、西高東低の冬型の気圧配置の影響を受け、北から西寄りの強風により急激に時化る場合がありますので、冬場は気象海象に注意してください。
なお、過去10年間の漁船海難を月別に集計すると、12月に発生した海難隻数が130隻と最も多くなっています。



【事例】
漁船A丸(2名乗組)は、漁場で揚網を終え、定係地へ向け航行を開始したところ、海上模様が悪化し始めたため、船首から大波を受け、大量の海水が船内に打ち込み浸水した。この状況を回避するため転舵し反転するも、船内に打ち込んだ海水の排水が間に合わず、更に海水の打ち込みが続き、船体が大きく傾斜した。身の危険を感じた船長他1名は、漁業無線で救助を求め、乗組員とともに海に飛び込んだ直後、漁船は転覆した。2名は転覆した船底に這い上がり、救助要請を受けた僚船に救助された。
(北西の風16メートル、波高2メートル、海上風警報が発令中)



～冬期の時化による転覆・浸水海難等を防止するために次の事項に注意しましょう～

- **最新の気象情報の入手**
荒天への対応は早めが肝心です。常に最新の気象・海象情報を入手しましょう！
- **早期避難**
荒天が予想される時は思い切って出港を見合わせる、早めに操業を切り上げ避難する等の措置をとりましょう！
- **荒天対策の徹底**
荒天中の航海が予想される場合は、あらかじめ移動物を固縛し、船倉や出入口扉を確実に閉鎖しましょう。また、甲板の排水口が物でふさがれていないか確認しましょう！